

国立大学法人京都工芸繊維大学

環境安全報告書

[ダイジェスト版]

Kyoto Institute of Technology

Environment and Safety Management Report

[Digest Version]

2021



持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals) のターゲットの一つとして、今世界中で深刻な課題となっているCOVID-19を含めた感染症対策も挙がっていますが、SDGsは、何より健全な地球の環境があってこそ達成されるものです。SDGsの17のゴール・169のターゲットのいくつかは直接的に環境課題を取り上げていますが、他のターゲットも環境を無視して考えることはできません。我々理工学系の研究・技術開発は、地球に住む人間が安心して心豊かに暮らせる、持続可能な社会の形成・維持を支援するものです。専門分野が異なってもその使命に変わりはありません。

本学の研究・教育がSDGsに何らかの貢献をすることが望まれますが、大学の研究環境、キャンパス環境、運営においても安全や3R (Reduce, Reuse, Recycle) に注意を払っていくことが重要です。

環境問題を意識し、より良い環境に結びつく行動を一つ一つ積み重ねていく、そこへ確実に導く仕掛けの一つが本学の「環境安全管理システム (ESMS)」です。もちろん課題を余すところなく網羅しているわけではなく、目に見えて成果が直ちに現れるわけでもありませんが、マネジメントシステムを構築することで、業務が標準化・構造化し、事故などを未然に防ぐことができるのです。

本学は、本学化学系で2001年に「環境マネジメントシステム (EMS)」を策定し、ISO14001の認証を取得し、さらに2003年には理工系大学として全国初となる全学認証を取得しています。ISO14001は、“環境ISO”とも呼ばれ、国際標準化機構 (ISO) が発行したEMSの認証に関する国際規格です。2016年には2015年版のISO14001への適応を踏まえて、安全管理を明確にしたESMSへの改定を行っています。

地球温暖化問題やその対策としての脱炭素、カーボンニュートラルなど、産業や生活そのもののパラダイムシフトに必要な、あるいは関係する研究・技術開発がこれまで以上に期待されています。

ESMSを維持し認証を受審していくことは、日々の努力を必要としますが、本学構成員の行動が社会的に認知されることは、地球の構成員として社会的責任を果たすことであり、ひいては、本学のみならず日本、地球にとって意義のあることなのです。

京都工芸繊維大学長 最高管理者 森迫清貴



京都工芸繊維大学環境安全方針

基本理念

京都工芸繊維大学は、「人間の感性を涵養し、精神的な潤いや自然との調和を強く意識した、普遍性のある科学技術の創生」を基軸として、自然環境保全と安全の確保に配慮した教育と研究を積極的に推進し、科学技術の進歩と持続可能な社会の発展に貢献する。

基本方針

(環境安全マインドの育成)

1. 環境保全活動及び環境安全教育研究を継続的に推進し、環境と安全を常に意識しながら主体的に行動する人材を育成する。

(環境負荷の低減)

2. 大学運営と教育研究活動から発生する環境負荷の低減と省資源・省エネルギー・資源の有効活用に努める。

(法令遵守)

3. 環境安全関連法令及び自主基準を遵守し、教育研究活動による環境汚染や健康障害などの事故防止に努める。

(継続的改善)

4. 環境安全目標を設定して、環境保全活動の推進とリスクの軽減に努め、継続的に改善を図る。

(コミュニケーション)

5. 環境や安全に関する情報を発信して、社会との相互理解を深める。

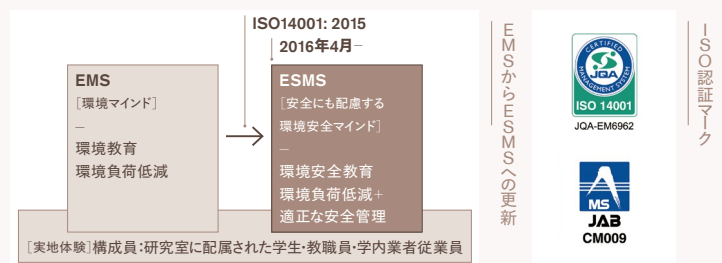
2019年4月1日 国立大学法人京都工芸繊維大学長 森迫清貴

環境安全目標

No	区分	目標
1	環境安全マインドの育成	・環境安全教育研究の推進 ・環境保全活動の推進
2	環境負荷の低減	・省エネ対策の推進 ・省資源対策の推進 ・廃棄物排出量の削減
3	法令遵守	・化学物質、高圧ガス、化成品の適正管理 ・実験廃液、廃棄物の適正処理 ・排水の適正管理 ・適正な作業環境の維持
4	キャンパス環境の保全	・キャンパス美化、緑化の推進
5	コミュニケーション	・社会に対する情報発信 ・地域社会との交流

環境安全マネジメントシステム

本学では「環境安全マネジメントシステム (ESMS)」を運用しています。環境安全方針において、環境だけでなく安全にも配慮した教育研究活動の活性化を宣言し、環境安全教育と実地体験による「環境安全マインド」をもつ人材の育成を重要な目標の一つとして掲げています。「環境安全マインド」とは、環境についての知識と環境改善を実施する実行力に加えてリスク管理など安全に配慮できる能力を指し、本学は、このような人材の育成によって社会に貢献することをめざしています。



マテリアルバランス

INPUT

エネルギー

電力	93,087 GJ
ガス	26,298 GJ
灯油・軽油	41 GJ

事務用品・物品等

紙(A4換算)	2,858 千枚
グリーン購入法 特定調達品目	141 品目

化学物質

PRTR法対象 化学物質(主な物質)	4,550 kg
-----------------------	----------

水

上水	17.7 千m ³
井水	28.4 千m ³

教育研究活動

OUTPUT

温室効果ガス

二酸化炭素	5521 t
-------	--------

廃棄物

一般廃棄物	154.4 t
一般廃棄物	86.6 t
古紙	67.8 t
産業廃棄物	327.6 t
産業廃棄物	270.8 t
感染性廃棄物	0.3 t
資源ごみ(ビン・缶・PET等)	56.5 t

特別管理産業廃棄物

有機廃液	8,909 L
無機廃液	656 L
固形廃棄物	1,134 Kg

水

下水排水	49.3 千m ³
------	----------------------

RECYCLE

廃棄物

一般廃棄物(古紙)	67.8 t
産業廃棄物(ビン・缶・PET等)	56.5 t

総エネルギー算出については、
環境報告書ガイドラインの算定式に従いました。
また、CO₂排出量は京都市地球温暖化対策条例に
基づき報告した値です。

京都工芸繊維大学
環境安全報告書 2021
目次

0 はじめに

1 環境安全マネジメント

2 環境安全教育・研究活動

3 環境コミュニケーション

4 環境安全管理の取り組み

5 安全衛生管理の取り組み

第三者意見

環境報告ガイドライン2018年版との対照表

発行

2021年(令和3年)7月

編集

環境科学センター・施設環境安全課

京都工芸繊維大学

環境安全報告書掲載ページURL

[https://www.kit.ac.jp/uni_index/
environment-policy/report/](https://www.kit.ac.jp/uni_index/environment-policy/report/)



国立大学法人 京都工芸繊維大学

〒606-8585

京都市左京区松ヶ崎御所海道町



京都工芸繊維大学
KYOTO INSTITUTE OF TECHNOLOGY